

研究成果の概要

研究代表者：奈良県立医科大学 県民健康増進支援センター 富岡公子
提供を受けた「平成 25 年 国民生活基礎調査 匿名データ A および B」の分析結果については、下記の学会にて研究成果を公表した。

学会名：第 79 回日本公衆衛生学会総会

開催場所：京都大学（オンライン開催）

演題タイトル：喫煙と心の健康との量反応関係における性差－国民生活基礎調査の匿名データより

研究概要：

【目的】心の健康状態が悪い者において喫煙者が多いことはよく知られている。しかし、喫煙と心の健康との量反応関係における性差や年齢の影響については十分検討されていない。本研究では、2013 年国民生活基礎調査の匿名データを用いて、喫煙レベルと心の健康との量反応関係を性・年代別に解析した。

【方法】統計法 36 条に基づき厚生労働省から提供を受けた 97,345 名の中から、20 歳未満 7,620 名、入院・入所・要介護状態 3,083 名、年齢等不詳 1,360 名、喫煙・心の健康不詳 4,100 名を除外した、男性 33,925 名と女性 37,257 名を解析対象とした。喫煙レベルは、非喫煙、過去喫煙、現在喫煙低（1 日 10 本以下）、現在喫煙中（1 日 11～20 本）、現在喫煙高（1 日 21 本以上）の 5 群に分類した。心の健康は K6 を用いて 13 点以上を重度な精神的健康問題あり（以下、心の健康が悪い）と定義した。説明変数は喫煙レベルとし、多重ロジスティック回帰モデルを用いて、心の健康が悪いに対する Odd ratio (OR) と 95% confidence interval (CI) を算出した。調整変数は、年齢、家族数、家の所有、婚姻状況、学歴、等価家計支出、就労状況、慢性疾患の通院歴、がん検診の受診とした。対象者を性（男性、女性）と年代（若年：20～44 歳、中年：45～64 歳、高年：65 歳以上）に層化して分析を行った。

【結果】解析対象者における現在喫煙ありの割合は男性 34.2%、女性 10.8%、心の健康が悪い者は男性 3.5%、女性 4.5%であった。量反応関係における性の交互作用は有意であった (P for interaction < 0.001)。性別に層化分析した結果、女性においては、調整 OR (95%CI) は、非喫煙を基準とすると、過去喫煙が 1.23 (0.92–1.64)、現在喫煙低が 1.50 (1.24–1.82)、現在喫煙中が 1.72 (1.43–2.06)、現在喫煙高が 2.20 (1.58–3.07)であり、喫煙レベルが高いほど心の健康が悪くなる量反応関係が認められた (P for trend < 0.001)。男性においては、喫煙レベルと心の健康との量反応関係はなく (P for trend = 0.700)、現在喫煙高のみ心の健康が悪いに対する OR が有意に高くなっていた (OR = 1.32、95%CI = 1.07–1.63)。量反応関係における年齢の交互作用はみられなかった (P for interaction = 0.409)。

【結論】喫煙と心の健康との量反応関係は女性のみにもみられた。精神的不調を呈している女性に対して精神的ケアと禁煙支援の充実が必要である。